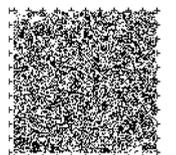
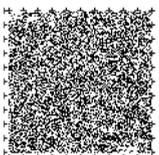


第2章 坂戸市の現状



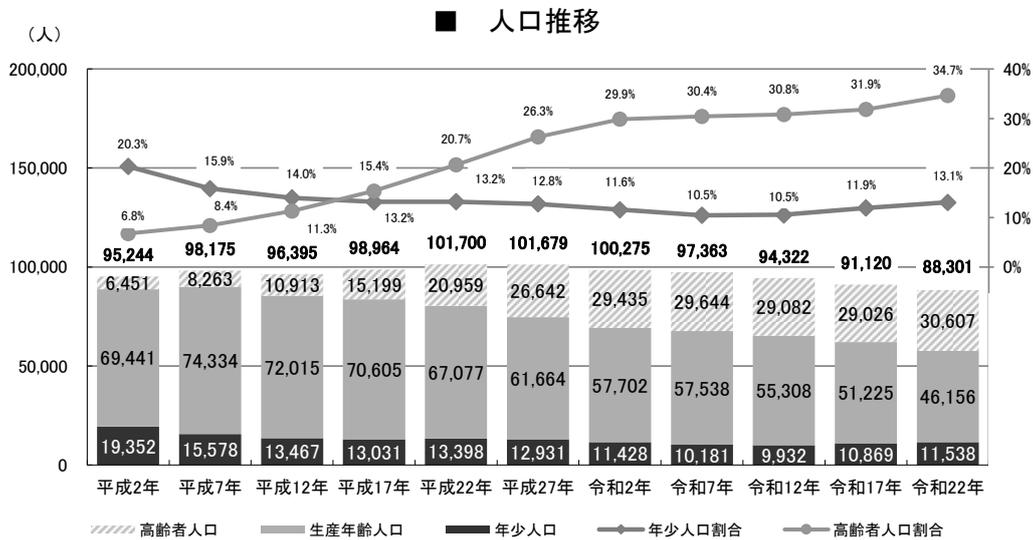


1 人口・世帯等の状況

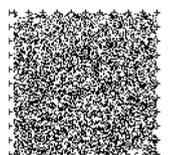
(1) 人口の状況

坂戸市の総人口は、平成22年をピークに減少傾向にあります。また、全国的な傾向と同様に少子・高齢化が進んでおり、高齢者人口割合は上昇、年少人口割合は減少傾向にあります。

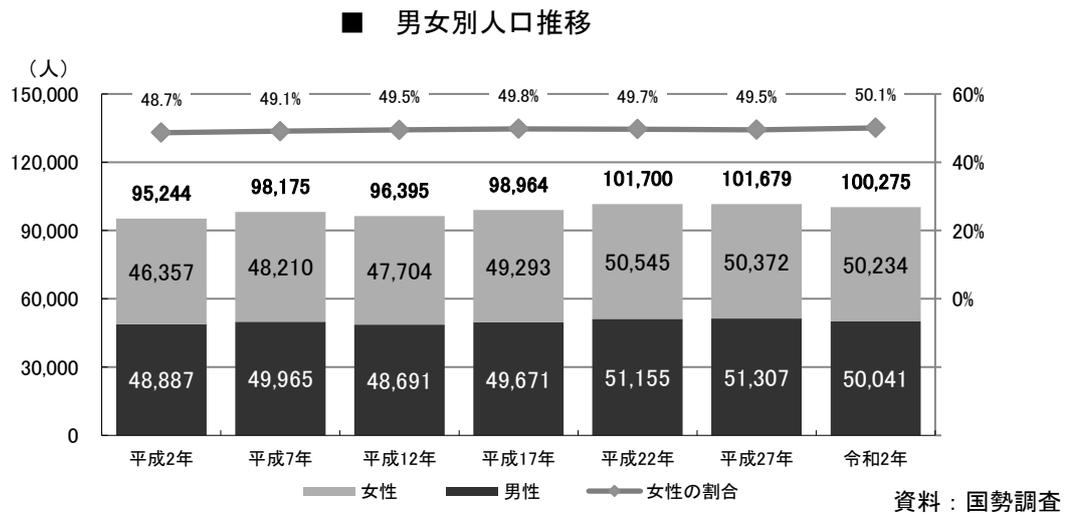
第2期坂戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の「人口ビジョン」における展望人口によると、今後も総人口が減少を続け、令和22年には9万人を下回る見込みです。高齢者人口割合は引き続き増加を続け、令和7年に30%に達することが予測されています。



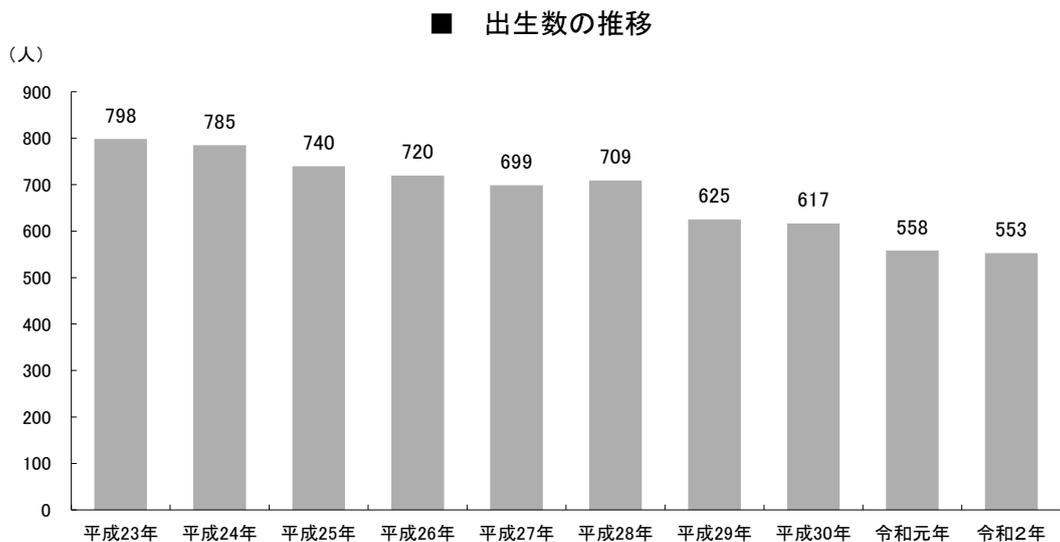
※ 令和2年以前は国勢調査。令和7年以降は第2期坂戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略「人口ビジョン」における展望人口



坂戸市の人口を男女別に見ると、ほぼ1：1の割合で推移しています。

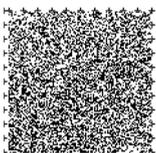


坂戸市の出生数は、平成27年から28年にかけて増加が見られたものの、全体として減少傾向にあります。令和元年以降は600人を下回っており、令和2年で553人となっています。



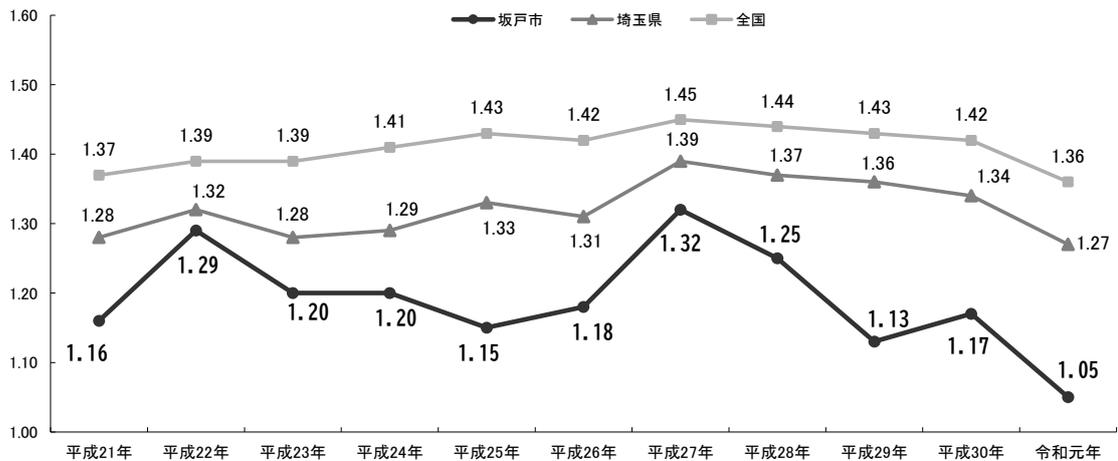
資料：住民基本台帳

坂戸市の合計特殊出生率*は、増減を繰り返しながら低下傾向にあります。令和元年の坂戸市の合計特殊出生率*は1.05であり、平成21年以降、全国平均値及び埼玉県平均値を一貫して下回っています。全国、埼玉県、坂戸市とも、人口を維持するために必要とされる値2.07を大きく下回る状態が続いています。



* 合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年齢別出生率で一生涯の間に子どもを生むとしたときの子どもの数に相当します。

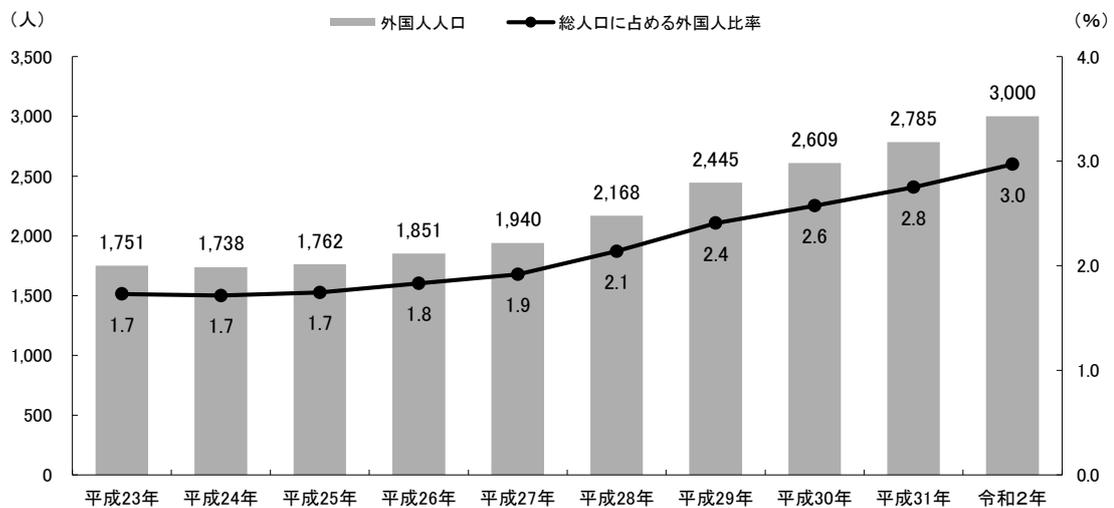
■ 合計特殊出生率の推移



資料：埼玉県資料

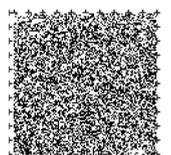
坂戸市の外国人人口は平成 25 年以降増加を続けており、令和 2 年 1 月 1 日時点で 3,000 人となっています。総人口に占める外国人比率については、平成 26 年以降増加を続けており、令和 2 年時点で 3.0%となっています。

■ 外国人人口の推移



※ 各年 1 月 1 日現在

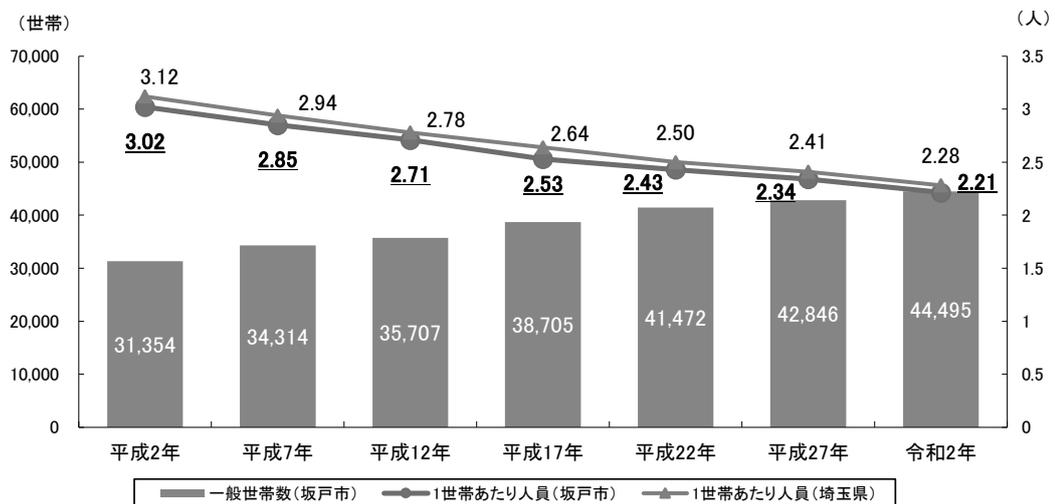
資料：住民基本台帳



(2) 世帯の状況

坂戸市における一般世帯数は増加を続けていますが、1世帯あたり人員は埼玉県平均と同様に減少を続けています。令和2年の坂戸市の1世帯あたり人員は2.21人であり、県内63の市町村のうち10番目に小さい数値となっています。

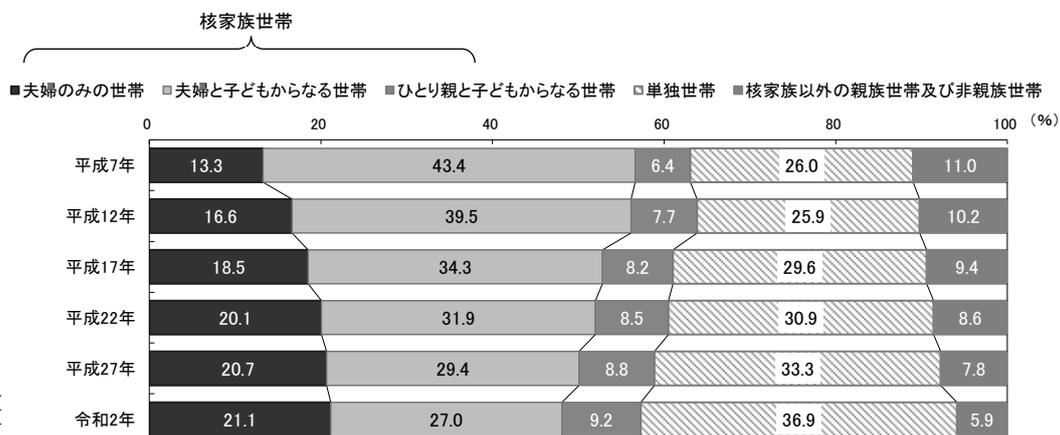
■ 世帯数及び1世帯あたり人員の推移



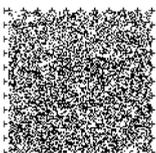
資料：国勢調査

坂戸市の世帯の家族類型比率の推移を見ると、単独世帯の割合は平成17年から増加を続けており、平成22年以降は全体の3割台となっています。核家族世帯については平成7年から22年にかけて6割強を占めていましたが、減少傾向にあり、平成27年には6割を下回りました。核家族世帯の内訳を見ると、夫婦のみの世帯、ひとり親と子どもからなる世帯が増加を続けている一方で、夫婦と子どもからなる世帯は減少を続けており、平成27年には全体の3割を下回りました。近年、坂戸市においては夫婦のみの世帯、ひとり親と子どもからなる世帯、単独世帯の割合が徐々に増加していることが分かります。

■ 世帯の家族類型比率の推移



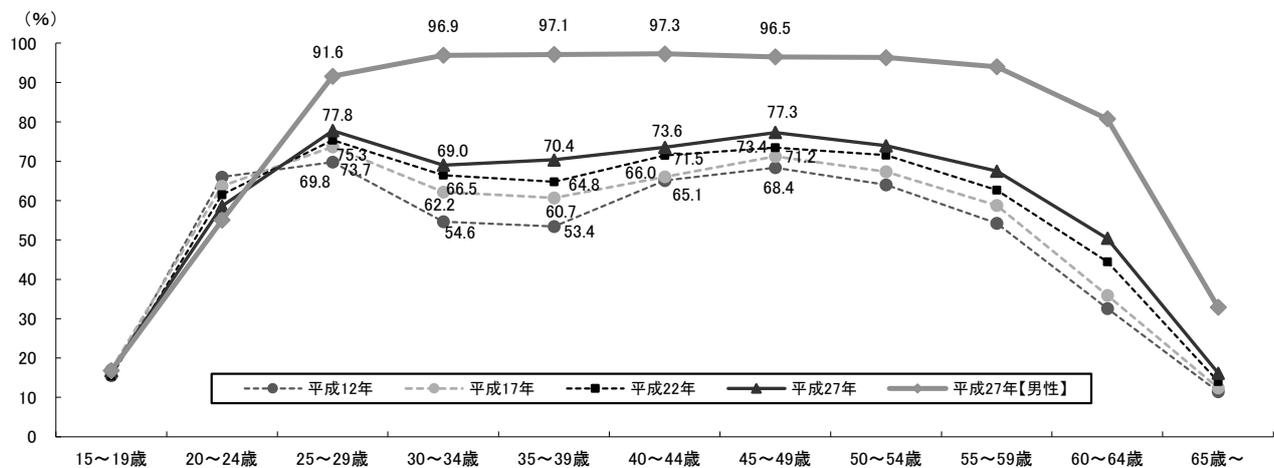
資料：国勢調査



(3) 就労・雇用環境

坂戸市の女性の年齢階級別労働力率（M字カーブ*）は、従来 30 歳～39 歳を中心に比率が低い形が特徴となっており、その背景に 30 歳前後で結婚や出産のために離職する傾向があるものと考えられてきました。近年、ほとんどの年代で労働力率が上昇しており、M字の状態が解消に向かっていますが、大半の年代において男性の労働力率を大きく下回る状態となっています。

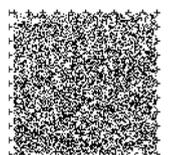
■ 坂戸市の女性の年齢階級別労働力率の推移



※ 労働力率は15歳以上人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合

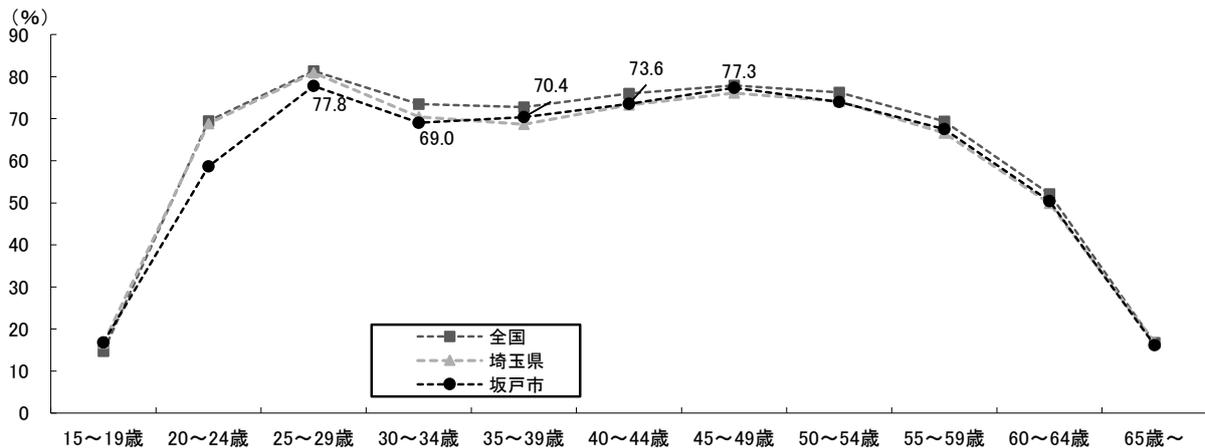
資料：国勢調査

* **M字カーブ**：女性の労働力率を年齢階層別にグラフ化したときの形のことで、30歳代が谷、20歳代後半と40歳代後半が山となり、アルファベットのMの字のような形になります。背景には、結婚や出産を機に労働市場から退出する女性が多く、子育てが一段落すると再び労働市場に参入するといったことがあります。



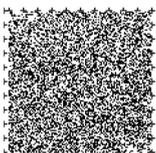
女性の年齢階級別労働力率（M字カーブ*）は、全国、埼玉県、坂戸市とも解消に向かっています。坂戸市の女性の年齢階級別労働力率は、35歳～49歳と55歳～64歳で埼玉県を上回っているものの、20歳以上の各年代で全国の値を下回っています。また、20歳～34歳、50歳～54歳、65歳以上では全国及び埼玉県を下回っています。

■ 全国、埼玉県、坂戸市の女性の年齢階級別労働力率



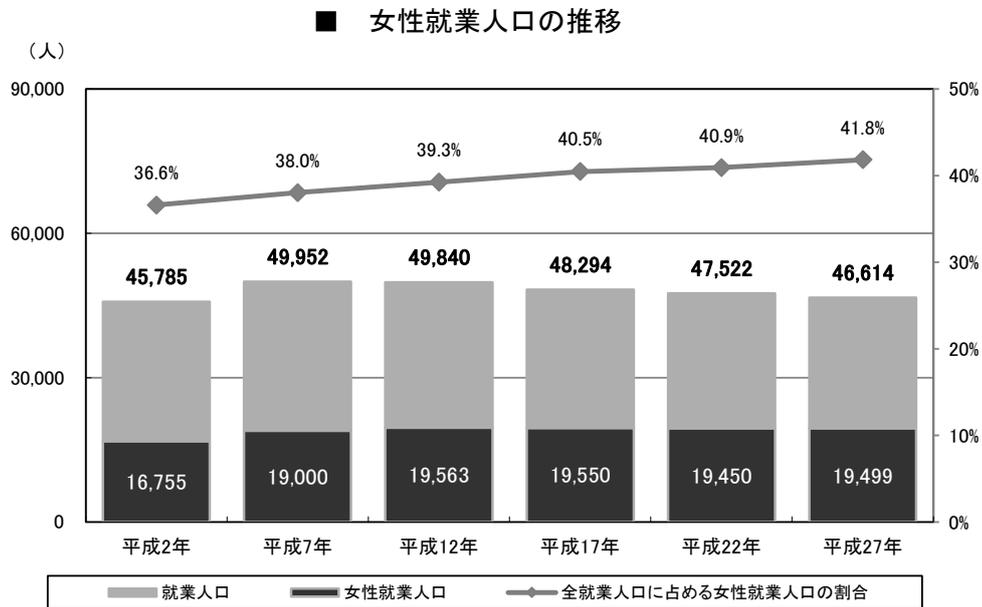
※ 労働力率は15歳以上人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合

資料：国勢調査（平成27年）



* M字カーブ：女性の労働力率を年齢階層別にグラフ化したときの形のことで、30歳代が谷、20歳代後半と40歳代後半が山となり、アルファベットのMの字のような形になります。背景には、結婚や出産を機に労働市場から退出する女性が多く、子育てが一段落すると再び労働市場に参入するといったことがあります。

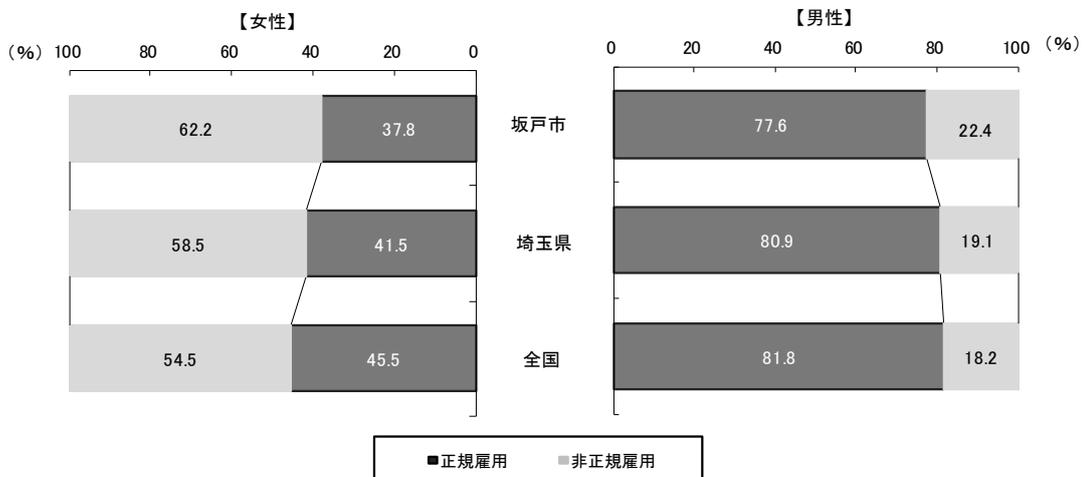
坂戸市の全就業人口は平成7年をピークに減少傾向にあるものの、女性の就業人口は平成12年以降ほぼ横ばいとなっています。全就業人口に占める女性就業人口の割合は増加傾向が続いており、平成17年以降は4割強となっています。



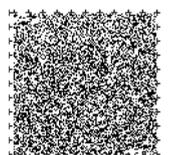
資料：国勢調査

就業者の雇用形態を見ると、男性の正規雇用率は全国・埼玉県で8割強、坂戸市で8割弱となっています。一方、女性の正規雇用率は全国・埼玉県が4割台、坂戸市では4割弱となっており、男性に比べて女性の正規雇用率が低いことが分かります。坂戸市は男女ともに全国及び埼玉県よりも正規雇用の割合が低くなっています。

■ 全国、埼玉県、坂戸市の就業者の男女別雇用形態



資料：国勢調査（平成27年）



2 第3次計画（後期計画）期間中の取組状況

平成29年3月に策定した現行計画では、基本目標に基づき9項目の数値目標を設定しました。現行計画における目標値に対する結果（令和2年度時点の状況）は、下記のとおりです。

○ 基本目標Ⅰ「男女共同参画の意識づくり」

主要課題	数値目標	計画策定時	目標値 (令和2年度)	令和2年度
1	社会全体が平等となっていると感じている人の割合	30.9% (平成27年度)	40%	29.0%
	固定的性別役割分担について同感しない人の割合	51.6% (平成27年度)	80%	54.1%
2	男女共同参画の視点に立ったキャリア教育*1の実施	100% (平成27年度)	100%	100%
	男女共同参画の視点に立った教職員の研修会の実施	100% (平成27年度)	100%	100%

○ 基本目標Ⅱ「市民とともにつくる男女共同参画のまちづくり」

主要課題	数値目標	計画策定時	目標値 (令和2年度)	令和2年度
1	『ワーク・ライフ・バランス*2』の認知度	26.4% (平成27年度)	40%	40.3%
	保育園の待機児童数	0人 (平成28年4月1日)	0人	0人
	ファミリー・サポート・センター*3登録会員数	403人 (平成27年度末)	450人	386人
2	審議会等における女性委員の割合	31.1% (平成28年4月1日)	35%	26.1% (令和3年4月1日)

○ 基本目標Ⅲ「配偶者等からの暴力の根絶」

主要課題	数値目標	計画策定時	目標値 (令和2年度)	令和2年度
1	何らかのDV被害を受けた人の割合	40.1% (平成27年度)	0%	27.1%

*1 キャリア教育：児童・生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育のことです。これまでの進路指導の枠組みにとどまらず、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」など、将来働くために必要な意欲・能力を培うものです。

*2 ワーク・ライフ・バランス：一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活等でも、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることです。

*3 ファミリー・サポート・センター：育児等の援助を受けたい市民（利用会員）と手助けをしたい市民（協力会員）が登録し、会員同士による相互援助活動のあっせんを行う事業のことです。

